

意見1 水引交差点の渋滞対策と計画道路の整備促進			
分野	自治会長からの意見	市長等からの回答	現況・今後の対応等（関係各課）
道路・交通関連	（1）緑ヶ丘2丁目自治会長 ■水引交差点を起点とする厚木高校入口交差点まで続く慢性的な渋滞は、緑ヶ丘循環バスを含むバスの定時運行の阻害となり、利用者の行動計画に大きく影響を与えている。バスに限らず、この道路を利用する車両全体の問題として、解決策を考えてほしい。渋滞の原因となるのは、交差点を変更して県道上粕屋・厚木線から水引・小野線の下りの車線に合流させていることが考えられるのではないか。変更前の状態に戻し信号のタイミングを変更すれば、少しは改善されるのではないか。 また、県道上粕屋・厚木線で、伊勢原方面から水引交差点方面に向かう場合、左折しかできない。右折する場合は、直進して信号を待ち、右折しなければならない。左折だけではなく、右折もできるようにできないか。	【霜島副市長】 ■水引交差点信号のタイミングについては、厚木警察署と協議の上、約1秒変更してみました。他の箇所での混雑が発生しています。今後、信号のタイミングを変えることによって、さらに渋滞の悪化を引き起こすことを厚木警察署は懸念しています。緑ヶ丘循環バスのスムーズな運行も含めて、慢性的な交通渋滞の解決に向けた方策を考える必要があります。	【協働安全部 交通安全課】 ■信号機の時間設定や改良など道路交通法上の規制に関することは、県公安委員会の所管となり、その窓口は厚木警察署となります。 厚木高校前から本厚木駅方面までの渋滞対策について、厚木警察署に確認をしたところ、「平成20年以降に所管である神奈川県公安委員会において、水引交差点の信号機の青色点灯時間を延ばす対策や、平成24年3月に厚木高校入口交差点の信号機の改良を行うなどの対策を実施しました。しかし、当該路線は、国道246号線と交差する水引交差点や海老名方面へ進行する相模大橋へ接続する主要な路線であり、現在の道路状況では、規制や信号機改良等で朝夕の混雑時における交通渋滞の抜本的な解消は難しい。」と回答がありました。 また、上粕屋・厚木線からの右折ですが、当該箇所の合流地点は立体交差点の直近であり、右折レーンも既設され、また、朝夕は横断する歩行者も多い状況です。 現在は、指定方向外進行禁止により右折が規制されていますが、仮に、海老名方面へ右折する場合、対向車線と右折レーンの二車線を跨いで進行しなければならず、水引交差点に右折待機車両がいた際は、県道からの合流が困難となります。 そのため、県道からの合流を制限し、一つ西側の信号交差点において右折することが、周辺道路の状況から鑑みて望ましいと判断し、現在に至っています。 《中間報告以降の状況等》 ■中間報告以降の変更等はありません。
		【市長】 ■平成25年度から、日産自動車株式会社テクニカルセンターと協力して水引交差点付近の交通量について調査し、車が一番スムーズに流れるタイミングを研究しました。結果については、厚木警察署にも提供し、信号のタイミングを修正した経緯があります。 水引交差点付近の渋滞解消に向けた案として、海老名方面に向かう車線を1車線増やし、左折専用レーンを設置したらどうかと考えました。担当部署にも検討させたところ、左折と直進が分かれることで、車の流れがスムーズになる可能性があるとのことです。実現に向け調整を続けたいと思います。 また、県道上粕屋・厚木線で、伊勢原方面から水引交差点方面に向かう場合の右折規制の解除については、交通量を含めて慎重に調査する必要があります。	【道路部 道路整備課】 ■県道603号水引交差点については、信号のタイミングを修正したり、厚木土木事務所や警察と調整を進めてきました。昨年度(平成29年度)末に県道の海老名方面に向かう直進・左折車線と右折車線の間に標示されていたゼブラゾーンを、厚木土木事務所が消去し、直進・左折車線を広くしました。 今後も、関係機関と情報を共有し厚木土木事務所に要望し、交通混雑解消を図っていきます。 なお、抜本的な解消を視野に入れて、第8次厚木市道路整備三箇年計画において、重点プロジェクトとして尼寺原工業地域交通アクセス整備事業(恩名仲原交差点～あゆみ橋)の検討を進めています。 《中間報告以降の状況等》 ■第8次厚木市道路整備三箇年計画における尼寺原工業地域交通アクセス整備事業については、概略設計委託を発注し、線形等について検討を進めています。
			【まちづくり計画部 都市計画課】 ■渋滞ポイントである水引交差点の渋滞解消方策を、市と日産自動車(株)との共同研究において検討しました。水引交差点とその先の中央公園西側交差点との青信号開始のタイミングを変更することで、渋滞改善の可能性があるというシミュレーション結果を踏まえ、県公安委員会と協議し、平成27年10月に青信号開始のタイミング変更を行いました。 その後、朝のピーク時において、当該区間を運行する路線バスの所要時間が数分短縮されるなどの改善効果がありました。 交通流の課題については、今後（仮称）総合都市交通マスタープランを策定する中で対策を検討していきます。 《中間報告以降の状況等》 ■現在、都市マスタープランの改定と併せて、本市の公共交通や道路ネットワークの指針となる、（仮称）総合都市交通マスタープランの策定を進めており、2020年度中に完成する予定です。

道 路 ・ 交 通 関 連	（2）奥原自治会長 ■緑ヶ丘地区には2本の計画道路があるが、全く進捗していないのはなぜか。さらに、計画道路内に開発事業が4件ある。道路整備が一向に進んでいない。 また、厚木市は計画道路がある箇所に木造・鉄骨3階建てが建てられないと条例で決まっている。周辺の住民らは、2世帯住宅が建てられなくて困っている。	【市長】 ■環状線の整備は、都市計画を決定してからが始まりであり、同時に全部の環状線を整備することは、市の予算だけではなく国の予算も絡んでくるため困難であります。 しかし、環状3号線は、愛名から飯山方面につなげる計画で、ようやく着手に向けて動き出しています。さらに、厚木秦野道路と並行して工事を進める環状2号線についても、及川周辺まで進んでいます。その他の環状線については、地域住民と協議をしながら進めていきます。 現在の都市計画道路の進捗状況は、約50%くらいです。残りの都市計画道路の整備は、工事が途中までで終わっている道路もありますが、土地利用全体を考えながら判断していきます。	【道路部 道路整備課】 ■都市計画道路は円滑な都市活動を支え、都市生活者の利便性の向上、良好な都市活動を確保するうえで必要な施設として、都市計画法に定められた都市施設です。 厚木市では、厚木市都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に基づき、道路整備計画を策定し、整備する路線の優先順位を設定し、計画的に都市計画道路等の整備を進めていきます。 《中間報告以降の状況等》 ■引き続き、計画的に都市計画道路等の整備を進めていきます。
	（3）緑ヶ丘1丁目自治会長 ■緑ヶ丘地区は環状1号線と2号線に挟まれた住宅地となっている。ここ10年は、市立病院や斎場など箱ものの建設でお金がかかっている。その分、道路にお金がかかっている。林の相鉄ローゼンの道路も行き止まりになっている。厚木市は全体的に行き止まりの道路が多い。緑ヶ丘地区は朝から通り抜けの車が多い。環状線の整備に力を入れてほしい。	【霜島副市長】 ■道路部と協議をしながら、幹線道路の整備に向けて、できる範囲で実行できるよう取り組んでいます。	【道路部 道路整備課】 ■都市計画道路 厚木環状1号線及び厚木環状2号線につきましては、既に区画整理または開発等により一部道路整備が完了している区間もあります。未整備区間については、2路線ともに住宅密集地区を通過する計画であるため、用地買収及び家屋移転等には時間を要することから、厚木市では、整備する路線の優先順位を設定し、計画的に都市計画道路等の整備を進めていきます。 《中間報告以降の状況等》 ■引き続き、計画的に都市計画道路等の整備を進めていきます。
	（4）王子2丁目自治会長 ■厚木高校から水引の交差点に差し掛かる一つ手前の信号では、横から車が入ってきて青になっても進むことができない。信号機のタイミングを自由自在に変えるなどの対策を講じてほしい。	【松尾協働安全部長】 ■信号機を含む交通規制に関することは、公安委員会の管轄になります。厚木警察署が要望受付窓口ですので、いただいた御意見を伝えとともに、混雑解消に向けて警察と協力しながら取り組んでいます。	【協働安全部 交通安全課】 ■信号機のタイミング変更については、公安委員会の所管となり厚木警察署が窓口となります。 信号機の時間設定については、周辺道路状況や交通状況等を考慮し決定されています。 信号交差点においては、ひとつの方向の通行だけでなく他方からの通行等も勘案する必要があります。当該交差点に合流する車を制限するということは、制限された方面が混雑し、交差点の処理能力が低下することから信号機の設置の意図が薄れるため困難であると、厚木警察署から回答がありました。 《中間報告以降の状況等》 ■中間報告以降の変更等はありません。
	（5）緑ヶ丘1丁目自治会長 ■信号待ちをしている車の量に応じて、信号のタイミングが変わる交差点を市と警察、企業などと協力して開発できないか。	【市長】 ■一箇所の交差点だけを見て信号のタイミングをコントロールするのではなく、周辺全体の交差点と連携させる必要があります。規制に関することなので、厚木警察署の管轄となりますので、協力しながら改善できるよう努力していきます。	【協働安全部 交通安全課】 ■信号機は、いくつか種類があり、車両の交通量で待ち時間が変化する感應式信号や、対向車線と点灯時間をずらすことにより一方の進行を促す時差式信号があります。 その他、歩車分離式信号、押しボタン式信号など、周辺の交通・道路状況に則した信号機の設置に努めていると厚木警察署から回答がありました。 《中間報告以降の状況等》 ■中間報告以降の変更等はありません。
		【松尾協働安全部長】 ■瞬時に信号機のタイミングを狂わせてしまうと、同じ時間帯に交差点を利用する運転手の感覚が狂い事故が多発する可能性がある、と厚木警察署から聞いています。なお、現在の信号機には光ビーコンという装置が付けられており、通過する車両の台数や量などを把握し、信号機のタイミングを時間ごとに変えることは行っています。	

意見2 自転車運転のマナー向上対策について			
分野	自治会長からの意見	市長等からの回答	現況・今後の対応等（関係各課）
道路・交通関連	（1）緑ヶ丘1丁目自治会長 ■自転車利用者のマナーについて、自転車は車と同じく左側通行が義務付けられているのにも関わらず、右側を通行する自転車が多くなっている。社会全体で自転車は左側を通行するという認識を持つためにも、小学生の頃から交通安全教育をしっかりとやってほしい。	【松尾協働安全部長】 ■最近、スマートフォンを見ながら自転車を運転する人やイヤホンをつけて音楽を聴きながら運転する人、歩道に広がって運転する人などをよく見かけます。自転車の教育については、小・中学校、高校生を対象に、市と厚木警察署、交通関係団体が協力して、交通マナーについて指導しています。 また、街頭でも自転車を利用している人に対しチラシを配布するなど、マナーアップに向けた取り組みを実施しています。 今後も、さまざまな場面で、マナーの向上につながるような啓発活動が続けていきます。 【市長】 ■厚木高校など市内の高校では、プロのスタントマンが交通事故を再現する、スケアードストレイト教育技法を用いた交通安全教室を開催しています。事故の瞬間を目の当たりにすることで、交通事故の恐怖を目と耳を通して感じています。 また、清水小学校では、交通規則や道路標識の理解度、狭い道やジグザグコースでの走行技能を競う「交通安全こども自転車神奈川県大会」に出場しています。昨年は見事、神奈川県で第1位に輝き、全国大会にも出場しました。子どもたちは、自らがそのような活動を通して、自転車の安全運転への意識を高めています。 この他にも、自転車走行を疑似体験できる自転車シミュレーターも活用しています。 しかしながら、自転車が左側通行だという認識は、まだ足りていないと感じています。引き続き、学校・厚木警察署・行政が協力しながら、自転車利用者のマナー向上に向けた取り組みを進めていきます。	【協働安全部 交通安全課】 ■市では、平成29年度から3箇年かけ市内全中学校13校において、プロのスタントマンが事故を再現するスケアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を実施しております。 また、例年5月には、厚木警察署や神奈川中央交通㈱と連携して、中学校や高校、短大での自転車マナーアップキャンペーンを実施し、自転車の正しい乗り方や交通ルール遵守の大切さ、自転車保険加入の促進をしております。 小学生への交通安全教室につきましては、厚木警察署と連携し自転車乗車時におけるヘルメット着用の大切さ、交通ルール遵守の重要性の普及に努めております。 引き続き教育段階に応じた交通安全教室やキャンペーンを実施し、児童・生徒に交通安全の意識が根付くよう努めてまいります。 《中間報告以降の状況等》 ■悲惨な交通事故を1件でも減少できるよう、引き続き、交通安全意識の向上に努めていきます。
	（2）奥原自治会長 ■厚木東高校や厚木商業高校周辺は自転車の利用者が多い。歩道に自転車用の通行帯を設置してほしい。	【市長】 ■自転車専用の通行帯を設置するには、道路の幅員がある程度必要となります。市に要望を出していただければ、設置に向けて厚木警察署と協議します。	【道路部 道路整備課】 ■厚木東高校や厚木商業高校周辺道路は、通学などによる自転車利用者が多いことを認識しています。 整備手法を検討し、安全で安心できる自転車走行空間の創出を図っていきます。 《中間報告以降の状況等》 ■現在、厚木市全域を対象とした自転車走行空間整備事業の実施に向けて、整備路線及び整備手法の計画策定を進めています。安全で安心な自転車走行空間の更なる創出を図っていきます。

意見3 本厚木駅前活性化に係る小田急電鉄（株）との連携について			
分野	自治会長からの意見	市長等からの回答	現況・今後の対応等（関係各課）
まちづくり関連	（1）王子3丁目自治会長 ■近年、小田急電鉄㈱は海老名市ばかりで開発を進めているように感じる。厚木市も小田急と協力して事業を展開できないのか。	【霜島副市長】 ■厚木市と小田急電鉄㈱が共同で実施した本厚木駅の耐震工事をはじめ、ホームに上がるエスカレーターの設置や駅東口の改修などを実施しています。また、愛甲石田駅では、利用者の増加を受け、駅周辺の再整備に向けた協議を小田急電鉄㈱と行っています。小田急電鉄㈱は、1日平均15万人が利用する本厚木駅を、広域的な拠点として考えています。	【まちづくり計画部 都市計画課】 ■厚木市では、小田急電鉄㈱の輸送部門、まちづくり部門、工事部門など様々な部署と連携し、駅舎や駅周辺の整備、商業・観光資源の開発など、ハード・ソフト両面から地域の活性化に取り組んでいます。 《中間報告以降の状況等》 ■10月27日に開催した「あつぎハロウィーン」では、小田急電鉄㈱とコラボレーションにより実施し、にぎわいの創出に貢献しました。

意見4 自治会役員の負担軽減について			
分野	自治会長からの意見	市長等からの回答	現況・今後の対応等（関係各課）
自治会活動関連	（1）王子2丁目自治会長 ■高齢化が進み、自治会の役員のなり手がいないことが問題となっている。また、自治会長になると、自動的にあらゆる委員に所属することになる。できるだけ、自治会長の負担が少なくなるよう整理してほしい。	【松尾協働安全部長】 ■高齢化による役員のなり手不足の問題は、各地区からも同様の問題として上がっています。自治会連絡協議会の中にある組織部会で、自治会の在り方などを検討してもらっています。また、兼任して他の委員などに委嘱されることが多すぎることですが、整理できるものは整理させていただき、自治会長の負担を少しでも軽減できるよう検討します。	【協働安全部 市民協働推進課】 ■協働安全部長等回答のとおりです。 《中間報告以降の状況等》 ■自治会加入促進については、市自治会連絡協議会に御意見をお伝えしましたので、今後も引き続き、組織部会で検討いただきます。 本市も、課題解決に向けて連携を図っていきます。